

南足柄市立向田小学校

研究テーマ：「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」

～見つけて、考えて、生かす～

1 実践の目的

学習指導要領で求められている「生きる力」や市のテーマである「確かな学力」を育むためには、児童の「主体的・対話的で深い学び」を実現することが大切である。そこで本校では、算数科を中心として、児童が自ら問いを見つけ、解決方法を考え、それを学習や生活に生かすことをねらいとして授業改善に取り組んでいくこととした。

2 実践の内容

1 適切なめあてづくり

児童が課題を見つけ、解決に向けて見通しをもって主体的に取り組むためには、学びを焦点化するめあてが必要である。適切なめあては、考えることを明確にし、話し合いを収束する視点にもなる。

しかし、授業の中でめあての作成に時間を取られていては、その後の学習活動を十分に行うことができない。短い時間でめあてを作成するには、導入の工夫が必要である。前時の終末やふり返りから学びを発展させた問いを作り上げておいたりし、本時の学習問題から既習とのずれを探したり、数学的な物の見方を働かせながら、焦点化された適切なめあてを短時間で作ることができるようにしていく。

2 ふり返り活動の充実

ふり返り活動を充実させることで、「何を学んだか」「何ができるようになったか」がさらに明確になり、それを手がかりに新

たな問題を見出したり、理由や根拠を示しながら説明したりすることができる。また、評価の面でも有用であり、深い学びを達成できたか、次に生かそうとする姿勢が生まれたかを判する材料にもなる。

ふり返り活動を行う際には、「わっとできる子」（わかったこと、次に学びたいこと、友だちの考えを聞いて思ったこと、できるようになったこと、これからの学習や生活に生かしたいこと）の視点を与える。そうすることで、ふり返る視点が明確になり、感想ではなく自分の考えを書くことができ、思考を深めることができる。また、個人のふり返りで終わるのでなく、共有し、算数的な物の見方・考え方を働かせた考えや、日常に生かすふり返りを取り上げ価値づけすることで、児童にさらなる深い学びをうながしていく。その際には、ICT（オクリンク、Jamboard）や、ふり返り用のプリントなど、児童の実態や学習内容に応じた方法をとる必要がある。例えばオクリンクに本時の感想を送れば、全ての子のふり返りを短時間で共有することができ、そこから自分のふり返りと比べ、考えに自信をもったり、新たな問題を見出したりすることが可能となる。

このように自分や友だちのふり返りを積極的に生かしながら、主体的に問題を解決しようとする児童を育てていくとともに、見つけた結論からさらに「考え」、そして「生かそう」とする児童を育てていく。

